

嘉麻市小さな拠点形成促進事業について

総合政策課

地域整備本部会議

令和6年8月20日

1. 上山田地域

■ これまでの取組

令和2年度に上山田小さな拠点づくり形成委員会を設立。(令和3年NPO法人化)

旧バス事務所(山田支所横)を活動拠点『ふれあい広場上山田駅』として、野菜、日用雑貨などを販売。また、年に2回程度、青空マーケットなどを開催。

高齢者等の買い物支援活動を中心とした、新たなコミュニティが形成されるなど、地域全体に活力が生まれる取り組みを展開。

■ 課題・今後の展開

活動メンバーの高齢化などにより、年々、メンバーが減少。令和6年度は、一旦、活動を中断、若手メンバーの勧誘などに取り組む予定。



住民が集う「ふれあいの場」を創っていく。

地域課題の解決に向け住民が立ち上がる
嘉麻市では令和2年度より上山田地域、熊ヶ畑地域、千手泉河内地域で小さな拠点形成促進事業を実施しています。上山田地域では「高齢者に優しいまちづくり」と「人々が集いふれあう事ができる場の創造」を大きなテーマに地域将来計画の策定が進められてきました。
「上山田地域では高齢化が進み買い物支援の重要性が年々増すうえにコミュニティの希薄化も進んでいると感じていました。そこで、旧バス事務所を活動拠点「ふれあい広場 上山田駅」とし、毎週月・火・水曜の10時～13時に町の野菜や果物、一部日用品、地元作家の工芸品などの店頭販売を行っています。カフェスペースも併設しているので、住民が美しい憩いのひとときを過ごす場所としても活躍しています。また10月にはNPO法人の資格も取得することができ、意義も大きい、種々の剪定などの生活支援事業も開始しました。移動販売車での移動

販売兼買い物代行支援事業も行っていく予定です。この事業は利用者の安全確認も兼ねているので、多くの方に利用してもらえれば嬉しいですね。」と理事長を務める武田さんは話します。
嘉麻市全体の賑わいへと繋げていきたい
これまで紹介した事業のほか、10月には山田図書館前の広場を利用して地元のお店が集い特産品などを販売する「あそびマーケット」も主催しました。集まったお客さんを楽しみ時間を通して、またおうち市内の店舗の他、キッチンカーでの飲食物の販売も行ったり、「住民の笑顔が見られる環境を作りたい」というメンバーの思いが詰まったマーケットは大盛況となりました。

このような地域に根ざした様々な活動を積極的に展開しているNPO法人「ふれあい広場 上山田駅」の皆さん、地域の課題を解決するために住民が立ち上がり主体的に活動していくことで、新たなコミュニティが形成され、地域全体に活力が生まれます。この熱量が上山田地域だけでなく嘉麻市内全域に広がっていくことが願いでもあります。子ども達のためにも地域住民が協力し合い、地域の未来を明るくしていくかなくてはなりません。皆さんの今後の活躍が期待されます。



2. 熊ヶ畑地域

■ これまでの取組

令和2年度に熊ヶ畑小さな拠点づくり形成委員会を設立し、熊ヶ畑地域将来計画を策定。令和3年度、熊ヶ畑地域拠点基本計画を策定。

令和5年度から令和6年度にかけて、拠点施設整備等審議会答申（令和5年6月21日：3～4ページ参照）を受け、現在、熊ヶ畑地域拠点施設建設基本計画（素案）を策定中。

■ 課題・今後の展開（見込）

拠点施設整備について多額の整備費が見込まれたため、市において拠点施設整備方針（山田活性化センターを改修し拠点施設として活用。山田いこいの家「白雲荘」の代替施設の整備については、市の財政状況や市全体の公共施設適正化の進捗状況などを踏まえ、当面、見送り。）を定め、熊ヶ畑地域小さな拠点づくり形成委員会に提示。

市からの方針を受けた熊ヶ畑地域小さな拠点づくり形成委員会としては、これまでの経過等から、山田いこいの家「白雲荘」の代替施設を拠点施設とすることを形成委員会の基本的な考えとするものの、市の状況を踏まえ、今後、改めて、地域課題を整理し、コミュニティ活動の方策を見出すなかで、拠点施設のあり方（山田活性化センターの改修内容）などを再検討。

2. 熊ヶ畑地域

■ 熊ヶ畑地域拠点施設建設基本計画（案）答申（令和5年6月21日）抜粋

■熊ヶ畑地域拠点施設建設基本計画 施設整備方針

基本的事項	
●安全に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民に対して、騒音や明るさなどに配慮した施設配置とする。 ・車両と歩行者の動線を明確に分離した施設配置を行い、安全面に配慮した計画とする。 ・災害に対応できる構造と温浴施設特有の条件を考慮した構造とする。
●資源・コストに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・ランニングコストに配慮した施設計画とする。 ・地域資源を有効活用できる施設とする。
●地域に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のランドマークとして機能する施設とする。 ・森林環境の育成など、地域の課題に応じた活動を行える場とする。 ・山田活性化センターと連携し、地域の活性化や施設全体の利便性の向上に寄与する施設とする。 ・地元運営となることを考慮した施設計画とする。
機能	基本方針
①健康増進機能	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の白雲荘の機能等の代替施設として整備する。 ・バリアフリーに対応した施設とし、身体の不自由な方や介護利用にも配慮した計画とする。 ・地域の世代間交流が図れる空間を創出する。
②コミュニティ機能	研修・集会機能 <ul style="list-style-type: none"> ・現在の公民館機能と同等程度の利用を想定した規模とする。 ・様々な用途にフレキシブルに対応できる計画とする。 ・健康増進機能と連携できる機能を検討する。
	交流機能 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の憩い、交流の場となる空間を確保する。
	防災機能 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の公民館（山田地区公民館熊ヶ畑分館）の避難所としての機能を踏襲し、必要なスペースを確保する。
③地元食材提供機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の食材を提供する飲食スペースを確保する。 ・雨天時にも利用できるようなスペースを確保する。 ・山田活性化センターと連携し、食材の加工や提供等の一体的な活用、円滑な連携が可能な施設配置とする。 ・健康増進機能利用者が立寄りやすく、連携した活用ができるよう配慮した計画とする。
④衛生機能	<ul style="list-style-type: none"> ・施設と一体とするなど管理がし易い配置を検討する。 ・災害等の緊急時にも利用可能なトイレ設備を確保する。
⑤イベント・レクリエーション機能	<ul style="list-style-type: none"> ・広場や駐車場を一体的に利用できる配置計画とする。 ・駐車場は、現在の温浴施設（白雲荘）と同程度の利用者数を想定し必要な面積を確保する。 ・地域のイベントをはじめとして多目的に活用できる広場を整備し、各機能（山田活性化センター、健康増進機能）と連携できる配置を基本とする。
⑥防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時に災害支援用の車両等の乗り入れが可能なスペースを確保する。 ・災害時の避難や支援活動など多目的に活用できる広場を整備する。

2. 熊ヶ畑地域

■ 熊ヶ畑地域拠点施設建設基本計画（案）答申（令和5年6月21日）抜粋

■ 熊ヶ畑地域拠点施設建設基本計画 建築デザイン方針

方針		配慮事項
周辺環境と調和したデザイン	○自然環境と調和したデザイン	・周囲の自然環境と一体感のある落ちつきのあるデザインとする。
	○自然環境を利用したデザイン	・大きな窓やトップライト等を設けて、室内が明るい空間となるデザインとする。
	○周辺民家に配慮したデザイン	・周辺の民家への配慮として、健康増進機能のボイラー室を防音室とするような配慮の他、日影にならないよう建築の高さ、配置等に十分留意したデザインとする。
利用しやすいデザイン	○安全なデザイン	・バリアフリー等に配慮し、誰もが安心して利用できるようなユニバーサルデザインとする。
	○分かりやすいデザイン	・健康増進機能、地元食材提供機能は、利用者に分かりやすいデザインとする。
	○利用動線に配慮したデザイン	・各諸室の利用者、管理者の動線に配慮した配置とする。
	○プライバシー、犯罪防止に配慮したデザイン	・健康増進機能の窓など、プライバシー確保、犯罪防止の観点より配置デザインを検討する。
にぎわいを創出するデザイン	○活性化センターとの連携を図るデザイン	・隣接する山田活性化センターとの連携に配慮して、相互に利用が促進されるようなデザインとする。
	○地域の交流の場となるデザイン	・イベント利用を考慮し、地域の活性化に寄与するようなデザインとする。
利用を促進するデザイン	○利用者が立ち寄りたくなるデザイン	・健康増進機能のロビーや地元食材提供機能は、外から室内の様子が分かりやすいように配慮することで、利用を促進するようなデザインとする。
	○施設のシンボル性があるようなデザイン	・前面道路や、隣接する県道を通過する車両が、遠くからでも施設の存在が分かりやすいようなデザインとする。

3. 足白地域

■ これまでの取組

令和3年度に足白小さな拠点づくり形成委員会を設立し、足白地域将来計画を策定。令和5年度、足白地域拠点基本計画を策定。

拠点施設については、築60年を超える老朽化が著しい嘉穂地区公民館足白分館の代替施設の確保を想定。

■ 課題・今後の展開（見込）

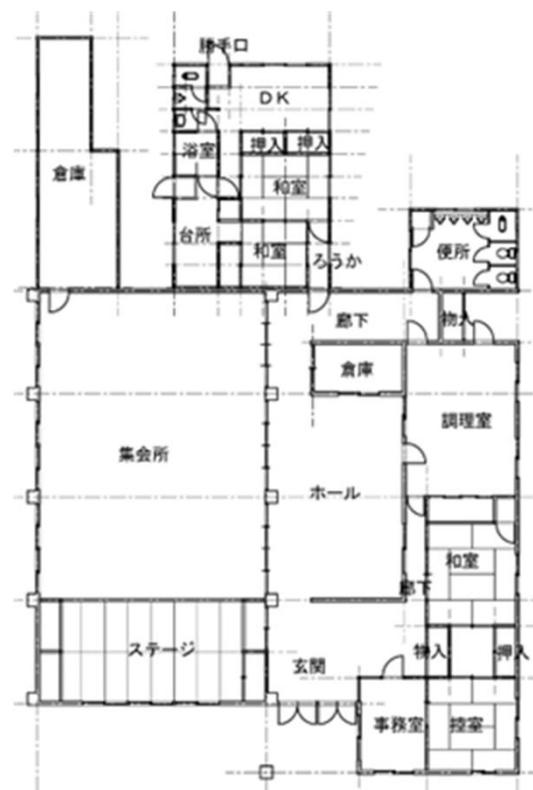
地域運営組織の構築に向け、地域内で組織メンバーの募るとともに、行政区単位等での事業説明会を行う予定。

● 嘉穂地区公民館足白分館の敷地・建物

構造・階数：RC造・平屋建 延床面積：約460㎡

建設年度：昭和37年度

耐震性：新耐震基準を満たしていない



間取図：嘉穂地区公民館足白分館の間取

4. 宮野地域

- 宮野地域小さな拠点づくり形成委員会の発足（令和6年7月19日）
- 今後の展開（見込）
 - ・ 全住民アンケートの実施
 - ・ 地域将来計画の策定



（令和6年7月12日宮野地域での小さな拠点形成促進事業説明会の様子）



（令和6年7月19日宮野地域小さな拠点づくり形成委員会発会式の様子）

※ これまでの宮野地域での地域資源活用プロジェクト協議会の活動

旧宮野小学校及び旧桑野分校の廃校を活用し、近畿大学産業理工学部と市及び地域が一体となり、地域の活性化を図ることを目的として、平成26年から活動。旧宮野小学校校舎の解体予定などを期に、10年間の活動を終了。

主な活動：地域連携ウインターフェア in 宮野、小野谷のあじさいロードやホテルを活用した地域活性化事業、メンマの加工及び竹チップの肥料化など特産品の開発・販売など

5. 全体的な今後の展開（見込）

- 各地域の拠点施設整備については、市の厳しい財政状況などを踏まえ、財政の改善状況や、各地域の現拠点施設の老朽化の状況などを総合的に判断し着手。
- 各地域では、コミュニティ活動を活発にするための、地域運営組織の構築などに取り組む。
- 一部地域では、地域課題を明らかにするための、全住民アンケートの実施を検討

令和5年9月28日 地域運営組織構築のための講演会
 令和6年3月21日 全住民アンケート説明会

■ 先進地の取組調査

令和6年5月28日～29日 市において島根県雲南市を視察。各地域の小さな拠点づくり形成委員会において当該事例の調査報告を実施。

【雲南市波多地区の取組（廃校を活用した買物支援等）】

地域の要望に応じた品ぞろえと、くつろぎの場の提供で地元の方々が集まれる場所としている

「はたマーケット」の様子



地域の皆さんの要望に応えながら、細く長く継続できるお店でありたいと考えています。
 喫茶コーナーも設置して、買い物に来た皆さんがくつろげるスペースも設けています。地元の野菜や作品なども置く予定にしています。



マーケットで出会った人同士で、世間話に花が咲きます。「元気だったかね、家で何しよるかね」

地元と「波多コミュニティセンター（はたマーケット）」をつなぐ送迎車両も運行

交通 地域内交通「たすけ愛号」

車を持たない高齢者の方、一人暮らしの方より、手軽に頼める交通機関があれば嬉しいとの要望より「たすけ愛号」の運行が始まりました。

はたマーケットオープンにより買い物に来られた方の送迎を「たすけ愛号」で行っています。
 買い物をしていただいた方は無料となっています。
 買いに来られない方は、注文取って配達をします。
 運転は、交流センター職員でおこなっています。



地域づくり

なんだろう？

地域運営組織 (RMO) とは？

地域運営組織の必要性について考えよう！

地域運営組織とは、地域の暮らしを守るため、地域で暮らす人々を中心となって形成され、地域内の様々な関係主体が参加する協議組織が定めた地域経営の指針に基づき、地域課題の解決に向けた取組を持続的に実践する組織です。

講師 齋藤 主税 氏
 特定非営利活動法人 都岐沙羅バートナースセンター 理事・事務局長

定員 約40名

入場 無料

9.28 (木) 14:00～15:30

夢サイトかほ 大研修室

申込については裏面をご覧ください